

2025年度 学習等支援施設自己評価

評価基準: A=している/ある B=どちらとも言えない C=していない/ない

		拠点名	令和さくら高等学院
分類	評価内容	自己評価	備考
施設・学習環境	01.通信教育連携協力施設にふさわしい場所に施設が設置されている。	A	アプリのようなツールを使って、欠席や遅刻の連絡、学習・相談の予約を手軽に行える。
	02.教室・施設環境に合わせた適切な定員が定められている。	A	
	03.教室は心理的安全性が保たれている。	A	
	04.一人で趣味に没頭したり、学習に取り組むことができる空間がある。	A	
	05.生徒同士や職員とコミュニケーションやグループワーク等に取り組める空間がある。	A	
	06.生徒や保護者が安心して個別に相談できる相談室がある。	A	
	07.保健室がある。	B	
	08.一息つける場所が校舎の中にある。	A	
	09.ロッカーや棚などを固定し、地震対策が行われている。	A	
	10.教室やトイレ、共用部分等は定期的に清掃されており清潔が保たれている。	A	
	11.学習の補助となる資料や教科書に関連した書籍、補助教材、その他図書類等が揃っている。	A	
人員体制	01.生徒の人数に合わせた支援担当の先生が適切に配置されている。	A	養護教諭免許状を有する職員を配置している。
	02.「学習指導要領」について見識のある職員を配置している。	A	
支援の質の向上	01.生徒個々の学習進捗状況を把握し、提出期日に遅延がないよう計画的な支援ができています。	A	進路説明会等に参加している。
	02.面接指導(集中スクーリング)について、事前の準備と当日の引率等、生徒の支援に努めている。	A	
	03.各種イベントや体験学習、校外学習等を通して、生徒が多様な経験や体験を得られる機会を提供している。	A	
	04.生徒個々の志望や適性に寄り添い、主体的な進路選択に結びつく適切な支援をしている。	A	
	05.職員の資質の向上のために、定期的な内部研修を実施している。	A	
	06.いじめや暴力を許さない指導を有効に実施することができている。	A	
日常の支援	01.教室での活動を通して、規則正しい生活習慣や社会の一員としての自主的・自律的な行動について適切な指導を行っている。	A	学習支援に加え、生活や心の面にも配慮した日常的な支援を行い、生徒が安心して学べる環境づくりに向けて、日々の合同時間を活用しながら、職員間でこまめに情報共有を行っている。
	02.支援や活動の内容について事前に職員間で打ち合わせを行い、役割分担等について確認をしている。	A	
	03.生徒の様子や活動の内容についての振り返りを行い、気づいた点等を職員間で共有している。	A	
	04.生徒の日々の状態や活動の内容を記録して、支援に活かしている。	A	
	05.生徒に合わせた支援・活動・キャリアプログラム(計画)等が提供されている。	A	
	06.スマートフォンを中心とした情報機器の正しい使い方やSNS利用などのネットモラルについて指導している。	A	
	07.生徒・保護者が奨学金や各種証明書の申請等の希望を申し出た場合、その事務手続きについて、高等学校と適切に連携が取れている。	A	
説明責任等	01.教室のルール、支援内容、学習の方法について丁寧な説明を行っている。	A	定期的な面談を通して、生徒・保護者様が求めている支援内容(学習・生活・進路など)を把握している。
	02.保護者からの相談に対して必要な助言と支援、適切な機関の紹介等を行っている。	A	
	03.生徒保護者から苦情があった際には、迅速かつ丁寧に対応、高等学校に情報を共有している。	A	
	04.個人情報の取り扱いに十分注意している。	A	
	05.学習等支援施設は高等学校そのものではないこと、スクーリングは本校に行くこと、授業料は別個に納入する等、生徒募集・入学相談に際しては明確な説明を行っている。	A	
学校運営	01.学習等支援施設事業を含め安定継続的な事業計画を立てて運営を行っている。	A	生徒一人ひとりの心身の健康状態に配慮し、日常的な声かけや相談対応、職員間の連携を通して、安心して学校生活を送れるよう支援している。
	02.法令を遵守した運営を行っている。	A	
	03.緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対策マニュアルを策定し、職員、保護者に周知している。	A	
	04.災害発生に備えて定期的な訓練を行っている。	A	
	05.ハラスメント・虐待等防止のために職員研修の機会を確保する等、適切な対応をしている。	A	

2025年度 学習等支援施設自己評価

評価基準: A=している/ある B=どちらとも言えない C=していない/ない

拠点名 令和さくら高等学院

分類	評価内容	自己評価	備考
	06.生徒の基礎疾患やアレルギー等について情報が共有され、対応策が事前に考えられている。	A	
	07.ヒヤリハット事例集を作成し、学習等支援施設内で共有している。	A	